

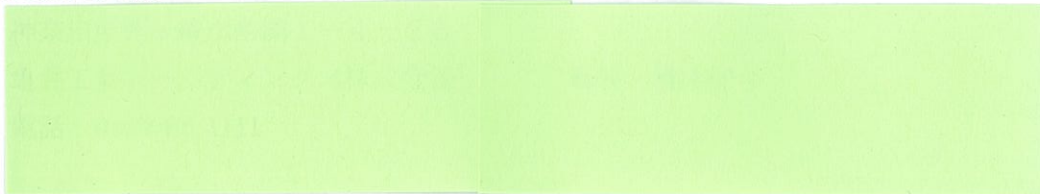
(別添資料)

政策提案書

(宛先)

茅ヶ崎市長

(提案代表者)



1. 市民の区分

市内在住 市内在勤、市内在学、市内で事業活動等

2. 提案する政策の名称

(仮称) サザンビーチプロジェクト

3. 現状の課題、問題点

スポーツ、食、芸術・文化等の面で茅ヶ崎らしいライフスタイルは多くの人を魅了し、今なおその魅力は継承されている。このようなライフスタイルは健康で心豊かな人生を送ることに寄与し、今後の高齢社会のライフスタイルの一つのモデルとなると考えられる。

茅ヶ崎らしいライフスタイルは、かつての別荘地文化がベースにあり、その文化を継承する形でパシフィックホテル、ビーチパレスといった施設を拠点として形成されてきたが、今の茅ヶ崎市には、既存のライフスタイルをベースとした新しいライフスタイルを作り出す拠点が欠けている。そうした状況の中、平成 26 年度には、さがみ縦貫道が全線開通するため、内陸から海へのアクセス性が向上し、海を中心とした茅ヶ崎の魅力の潜在性の向上が想定されており、茅ヶ崎らしいライフスタイルの普及、創造を効果的に行う為の拠点が必要となる。

施設の立地に関しては、茅ヶ崎市内で漁港や海水浴場が立地し、海との結節拠点となっており、シンボル性のあるグランドプラン地区が適切と考えられる。当該地区は、茅ヶ崎海岸グランドプランが策定され、地区の中心となる B 地区は、その潜在性を活かす土地利

用を図るため「景観に配慮した観光・商業関連機能の適切な誘導」、「美しく安らぎのある交流空間の整備」、「地域文化の振興」が土地利用方針として位置づけられている。このような土地利用を実現するためには、交通軸となる国道 134 号と海岸に面する土地とを一体的に活用し、その潜在性を最大限に発揮することが重要と考えられる。しかし、B 地区の現在の土地所有は国道 134 号に面する北側の土地（提案者所有地）と海岸に面する南側の敷地（市有地）との所有者が異なり、それぞれ単独の土地利用ではその土地の潜在性を十分に発揮することができず、グランドプランの具現化にあたっての大きな課題となっている。

また、グランドプラン地区の海岸から国道 134 号線へのアプローチは少なく、海水浴場開設期間等、海岸に多数の人が滞留している時に津波が発生した場合には、避難経路はボトルネックとなり、課題となっている。

4. 提案する政策の内容

かつての南湖院、パシフィックホテル、ビーチパレスに続く茅ヶ崎の新たなシンボルとなる空間として、茅ヶ崎海岸のビーチスポーツやサイクリング（スポーツ）、湘南サウンド（音楽）、茅ヶ崎の海と山の幸（食）を基本的な要素とし、茅ヶ崎らしいライフスタイルの継承、創造、普及の拠点となる集客・交流空間を創出するため、施設の整備と運営を行う。

施設は、グランドプラン地区の B 地区にある提案者が所有する民地（約 1,815 m²）及び市有地（1,435.97 m²）を一体的に活用した上で行うこととし、当該地の潜在性を最大限に引き出すものとする。

本施設は、広く市民に開かれた、市民の日常を支える交流や憩い、レジャー、健康増進の場としての目的をもちつつ、津波発生時の避難先や、国道 134 号線までの避難経路としての役割や、ホノルル市との姉妹都市提携を契機に両市間の交流による活性化推進の役割を視野に入れたものとする。

施設名称：「茅ヶ崎サザンビーチパレス」（仮称）

《コンセプト》

茅ヶ崎サザンビーチパレス（仮称）は、茅ヶ崎海岸の風土や文化を継承するテーマのもと、多世代の市民がさまざまな目的において「集う」こと、そして「楽しむ」ことを通して、ローカルファーストで魅力的な茅ヶ崎らしいライフスタイルを創造する場。

茅ヶ崎市民という「家族」が、心地よく集い、同時に、ゲスト（観光客）を暖かく迎え入れる交流空間、すなわち「サードプレイス」である。

《プランイメージ》

①ウッドデッキ

国道から海岸へ傾斜（階段＋踊り場）状に設置されるデッキは、コンクリートではなく、人々を迎え入れるコンセプトに相応しい温もりのある木製。国道から砂浜への「通路」（避難通路としての役割を含む）に留まらず、時に「広場」に、時に「イベントスペース」としての機能も視野に入れた「賑わい創出」のメインエリアである。国道から海岸（砂浜）へ渡る中継地に位置し、地域市民や観光客などが、オープンな空間で自由に集うことのできる、最大の交流スペースとする。なお、材質の「木」には、塩害に強く、また紫外線を吸収する（照り返しが少ない）特長がある。人や環境に配慮した材質を選定することも、計画全体の大切な考えの一つである。

②レストラン

ローカルファーストを基本とする地元の魚介や野菜、肉等の食材をメインに、食事を提供する。パン窯を設置しテイクアウトも含めた幅広い展開のできるイメージのレストランを検討。市民が朝から気軽に来店し、食事を含めた「時間」を楽しめる場所であり、また観光客にとっても、「食」と共に、「茅ヶ崎のライフスタイル」を感じ取ることのできるような空間を目指す。

③バンケット

150～200㎡程度のバンケットホール。茅ヶ崎市内に同程度のホールが少ない背景も踏まえ、施設内に計画。イベントホールとして各種目的に応じて「市民の集える」場所とする。

④シャワー・トイレ

海岸と国道を繋ぐエリアとして、公共性の点においても必須となる施設。建物最下層部に予定し、砂浜からの利便性を取る。

⑤ミュージアム・スタジオ

単体のミュージアム施設ではなく、建物全体のデザインの中に、茅ヶ崎の文化や歴史を発信するアイテムを組み込んでいくイメージ。特に「湘南サウンド」を代表とする音楽的な文化要素をメインに検討している。将来のアーティスト育成の拠点、そして新たな湘南文化の発祥地となるべく「スタジオ」の併設も検討。

⑥災害時退避施設としての役割

市有地の一部利用や「海岸」というパブリックスペースにかかる計画であることを前

提に、海からの避難通路の確保や施設屋上部分の一時的な退避場所としての活用、また防災倉庫の設置などを設計に組み込み、管理等についても、きちんと協議された状態で運用していく。

⑦その他

海岸からビーチデッキ、施設（建物）の一带を景観に配慮した美しくやすらぎのあるデザインで計画し、市民の憩いの場であると同時に、観光・商用関連機能の高い、シンボル性の高い総合施設（エリア）とする。

また、ホノルル市との姉妹都市提携決定を受け、2都市の具体的な交流拠点となる機能も配慮しつつ計画する。

5. 予想される効果

- ・魅力的なライフスタイルが示されることで、市民ひとりひとりの茅ヶ崎への誇りと愛着心が高まり、永続的に向上していける「まちづくり」の精神が培われる。また「茅ヶ崎」のイメージが上がり、中長期的に流入人口の増加が見込まれる。
- ・子供や若年層、高齢者など多世代に亘って集える空間では様々な情報や経験の交流が持たれ、これからの社会に絶対的に必要な「コミュニケーション力」が高められる。
- ・「集う」だけでなく、「運営」にも市民や行政、地域企業の声や力を幅広く活用することで、就労機会の創出も可能になる。
- ・市民の憩いの場所となるだけでなく、「観光財産」としてアピールすることができる。圏央道の開通を機に、観光スポットとしての魅力発信を行い、市外・県外からの集客増、及び観光収入増に寄与する。さらにホノルル市との姉妹都市提携による具体的な国際相互交流事業が、ここを拠点に展開される。
- ・この施設が市民に広く活用されることは、現在、茅ヶ崎市が有識者会議等を行いながら協議している「あるべき長寿社会のイメージ」を具現化するひとつのパーツになり得る。高齢者が積極的に（目的をもって）家の外へ出かけられる環境は、体の健康、人々との交流による精神の健康、また趣味やボランティアなどを通じた生きがいの創設などが想定されるが、すなわち、これからの長寿社会における地域の取り組みのモデルケースとなる。

6. 必要な費用

- ・総事業費 6億円

以上